

基本目標

2

子どもが生き生きと育つまち

近年、全国的に少子化が進んでいます。このことは、これまで若い世代が多いとされてきた大和市においても同様です。

核家族化や地域コミュニティの希薄化などが進む中で、家庭における子育ての力の低下が指摘されています。家庭だけでなく地域全体で子どもの心身の健康と安全を守る取り組みを進め、子どもの健全な成長を支えていくことが大切です。

様々な生活経験や自然体験をする機会が減少している中で、子どもの生きる力が低下しているといわれています。

大和市は、家庭や地域、学校、関係機関と連携を図りながら、子どもの個性を伸ばし、可能性を広げる教育と、様々な体験の場を提供することによって、子どもが夢や目標をもって着実に成長できる環境をつくっていきます。

また、子育て中の家庭の孤立感や不安感を解消するために、多方面からの支援を行い、安心して子育てができる環境を整備していきます。

大和市は、「健康創造都市」の実現に向けて、発達に応じたきめ細かな施策を展開し、子どもが生き生きと育つまちづくりを推進します。



基本目標を実現するための個別の目標



個別目標

2-1

子どもの健康と安全を守る

子どもの健康と安全を守り、子どもが安心してのびのびと暮らせる環境をつくれます。

個別目標

2-2

子どもの生きる力を育む

次代を担う子どもが社会の中でたくましく生きることのできる力を育みます。

個別目標

2-3

子どもを育てやすい環境をつくる

家庭、地域、行政の連携、協力によって、誰もが子育てしやすい環境をつくれます。

個別目標

2-1

子どもの健康と安全を守る

近年では、食生活や生活環境の変化などにより、子どもの体力低下やストレスの増加を招き、心身の健康を脅かしています。妊娠時から乳幼児期、学齢期にかけての健診体制の充実、食育[※]を含めた健康教育の推進などを通して、子どもの健康を守ることが大切です。

また、子どもが被害者となる犯罪や交通事故が多発しており、その対策を図るとともに、児童虐待の防止など、子どもの人権を守る取り組みも進めていきます。

大和市は、子どもの健康と安全を守り、子どもが安心してのびのびと暮らせる環境をつくります。



※食育

「食」に関する知識を持ち、自分に望ましい「食事」を選択できる能力を身につけ、健全な「食生活」を送ることができるようにすることです。

※学校PSメール

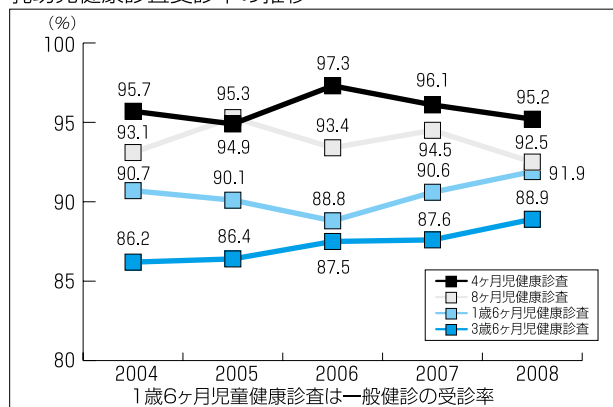
学校から、犯罪、不審者、自然災害の情報や登下校時間の変更、行事のお知らせなどを、保護者等へ迅速に伝達するメール配信サービスのことです。

基本目標を実現するための個別の目標

1	めざす成果 成果を計る指標	子どもの心身の健康が保たれている		
		疾病などの早期発見と予防が図られ、健康を損ねるおそれのあるときには、必要に応じて関係機関で適切な支援が受けられます。		
		妊婦健康診査の平均受診回数		
		現状値(2007)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		4.5回	14.0回	14.0回
		4ヶ月児健康診査の受診率		
		現状値(2007)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		96.1%	97.5%	98.0%
		肥満児童・生徒の割合		
		現状値(2007)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		1.72%	1.56%	1.53%

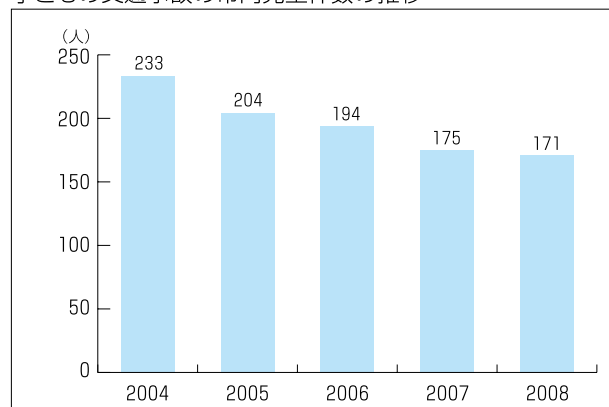
2	めざす成果 成果を計る指標	子どもの人権と安全な生活環境が守られている		
		子どもの人権が守られるとともに、子どもが犯罪や事故などにあわず、安全な生活を送っています。		
		学校PSメール*普及率		
		現状値(2007)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		64.7%	70.0%	80.0%
		子どもの交通事故の市内発生件数		
		現状値(2008)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		171件	140件	130件

乳幼児健康診査受診率の推移



資料:こども総務課(各年度集計)

子どもの交通事故の市内発生件数の推移



資料:神奈川県交通安全対策課(各年集計)



個別目標

2-2

子どもの生きる力を育む

子どもが夢や目標をもちながら、自らの生き方を選び、着実に成長していくためには、確かな学力と豊かな人間性や社会性、そして、主体的、意欲的に行動できる能力を育んでいくことが重要です。

障がいや疾病などにより様々なサポートを必要としている子どもには、乳幼児期から適切な療育支援を行い、学齢期には特別支援教育[※]のシステムによって、一人ひとりの状況やニーズに対応していく必要があります。

また、子どもは様々な体験を通じた他者とのかかわりあいの中で、思いやりをもつことや、目標に向かって努力し続けることの大切さを学びます。

大和市は、次代を担う子どもが社会の中でたくましく生きることのできる力を育んでいきます。



※特別支援教育

特別支援学校（盲・聾・養護学校）、特別支援学級などに在籍する子どもだけでなく、通常の学級に在籍している、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性

障害）、高機能自閉症（知的発達の遅れを伴わない自閉症）などの発達障害の子どもを含めて、一人ひとりにきめ細やかな支援をしていく教育を言います。

※児童生徒

学校教育法に基づき、保護者が就学させなければならない子ども。小学生を児童、中学生を生徒と呼びます。

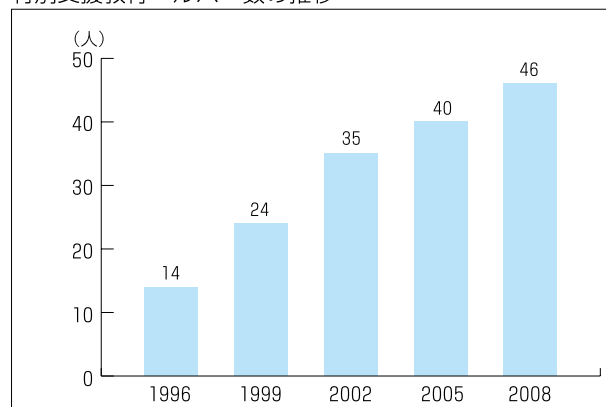
※少人数指導

学習集団を小さくして、子どもの実態や教科等の特性に応じた指導を実現しようとする指導形態です。

基本目標を実現するための個別の目標

1	めざす成果	子どもが夢や目標をもって学んでいる		
		子どもが着実に成長するために、夢や目標をもって学んでいます。		
	成果を計る指標	将来の夢や目標をもっていると答えた児童生徒*の割合		
		現状値(2007)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		75.0%	76.0%	78.0%
		不登校生徒の割合(中学校)		
		現状値(2007)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		4.54%	3.80%	3.00%

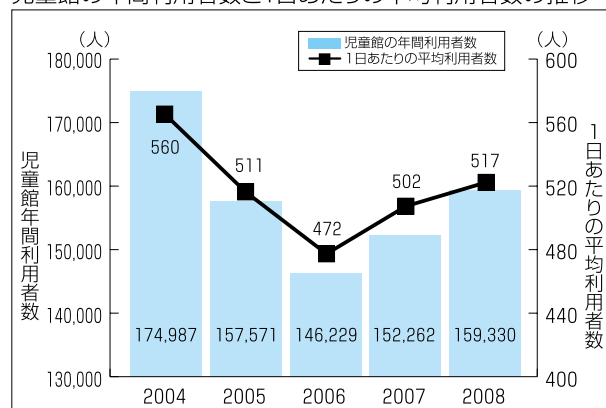
特別支援教育ヘルパー数の推移



資料:指導室(各年4月1日時点)

2	めざす成果	子どもが個性・能力にあった教育を受けている		
		子どもの個性や能力に応じた教育の場が用意され、障がいの有無に関わらず、子どもが生き生きと活動しています。		
	成果を計る指標	子どもの個性や能力にあった教育が行われていると思う市民の割合		
		現状値(2008)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		27.8%	35.0%	40.0%
		小・中学校少人数指導*等非常勤講師の充足率		
		現状値(2008)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		79.3%	85.0%	90.0%
	特別支援教育ヘルパー*充足率	現状値(2008)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		79.0%	95.0%	100.0%

児童館の年間利用者数と1日あたりの平均利用者数の推移



資料:こども・青少年課(各年度集計)

3	めざす成果	子どもが様々な体験をしながら育っている		
		生活の中で、様々な居場所や体験の場が整い、子どもが豊かな人間性、社会性を身につけています。		
	成果を計る指標	児童館の1日あたりの平均利用者数(全22館)		
		現状値(2007)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		502人	506人	506人
		放課後子ども教室*実施校		
		現状値(2008)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		1校	19校	19校
	中高生ボランティア参加者数	現状値(2008)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		33人	44人	53人

※特別支援教育ヘルパー
特別支援学級に在籍する児童生徒の
介助等を行うスタッフです。

※放課後子ども教室
放課後に小学校の校庭や体育館、余
裕教室を利用し、地域住民の見守り
の中、児童に安全な遊び場所を確保する
事業です。

個別目標

2-3

子どもを育てやすい環境をつくる

子どもの健やかな成長のためには、家庭における子育てを基本としながら、地域全体が協力して、子育て家庭を見守り、支える環境をつくることが重要です。

子育て家庭の不安を取り除くため、相談体制や親同士の交流できる場を充実するとともに、児童手当や小児医療費の助成など、経済的にも子育て家庭を支援していきます。

また、働きながら子育てがしやすいように、保育園や放課後児童クラブ[※]の充実を図ります。

大和市は、家庭、地域、行政の連携、協力によって、誰もが子育てしやすい環境をつくれます。



※放課後児童クラブ

放課後帰宅しても保護者の就労や病気などにより、適切な保護を受けられない小学校低学年の児童等に対して、生活、遊びを通して、子どもの健全な育成を図る事業です。

※つどいの広場

子育て中の親と子が気軽に集い、育児に関する相談・情報提供・講習などのサービスを受けることができる場として、つきみ野サティとイオン大和ショッピングセンター内の2ヶ所に設置されています。

※保育所

児童福祉法に基づき、保護者の労働、疾病などの理由により、家庭で乳幼児の保育ができない場合に保護者に代わり保育する目的で設置された児童福祉施設です。

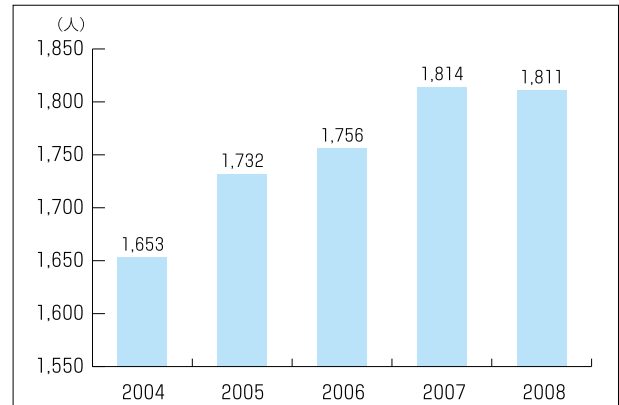
※待機児童数

保育所への入所申込みをして、入所要件に該当しているが入所できていない児童の数です。認定保育園で保育を受けている児童や転園を希望している児童などは含まれません。

基本目標を実現するための個別の目標

1	めざす成果	安心して子育てをしている		
		精神的にも、経済的にも安心して子育てができています。		
	成果を計る指標	子育てに関する不安を相談できる場があると思う市民の割合		
		現状値(2008)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		40.7%	45.0%	50.0%
	成果を計る指標	つどいの広場*の1ヶ月あたりの平均利用者数(3歳未満児)		
		現状値(2008)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		1,645人	2,000人	2,400人

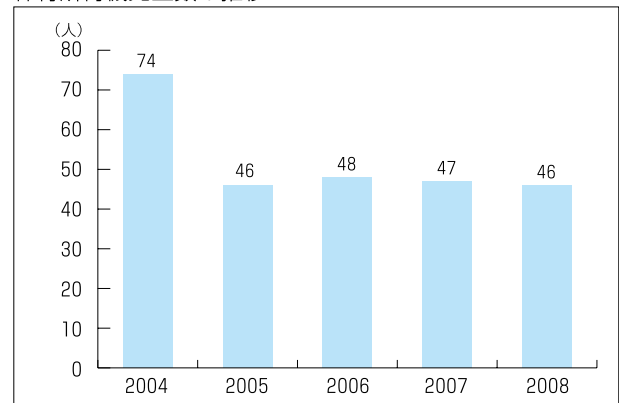
認可、認定保育園*の園児数の推移



資料:保育家庭課(各年4月1日時点)

2	めざす成果	働きながら子育てができています		
		保育園や放課後児童クラブなど、働きながら子育てができる環境が整っています。		
	成果を計る指標	保育所*の待機児童数*		
		現状値(2008)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		46人	36人	30人
	成果を計る指標	放課後児童クラブの待機児童数		
		現状値(2008)	中間目標値(2011)	目標値(2013)
		0人	0人	0人

保育所待機児童数の推移



資料:保育家庭課(各年4月1日時点)



※認可保育園

県の認可を受けているところから、こう呼ばれます。大和市には2009年4月現在、公立(市立)6園、私立9園の計15園あります。

※認定保育園

県への届出だけで設置できる保育施設(私設保育施設)のうち、施設内容などが認可保育園に準ずるものとして市の認定を受け、県と市の助成を受けている施設です。